

持ち帰り可

令和7年度 山口県立大学 別科助産専攻

一般選抜

入学試験「小論文」問題

試験開始の指示があるまで、この中を見てはいけません。

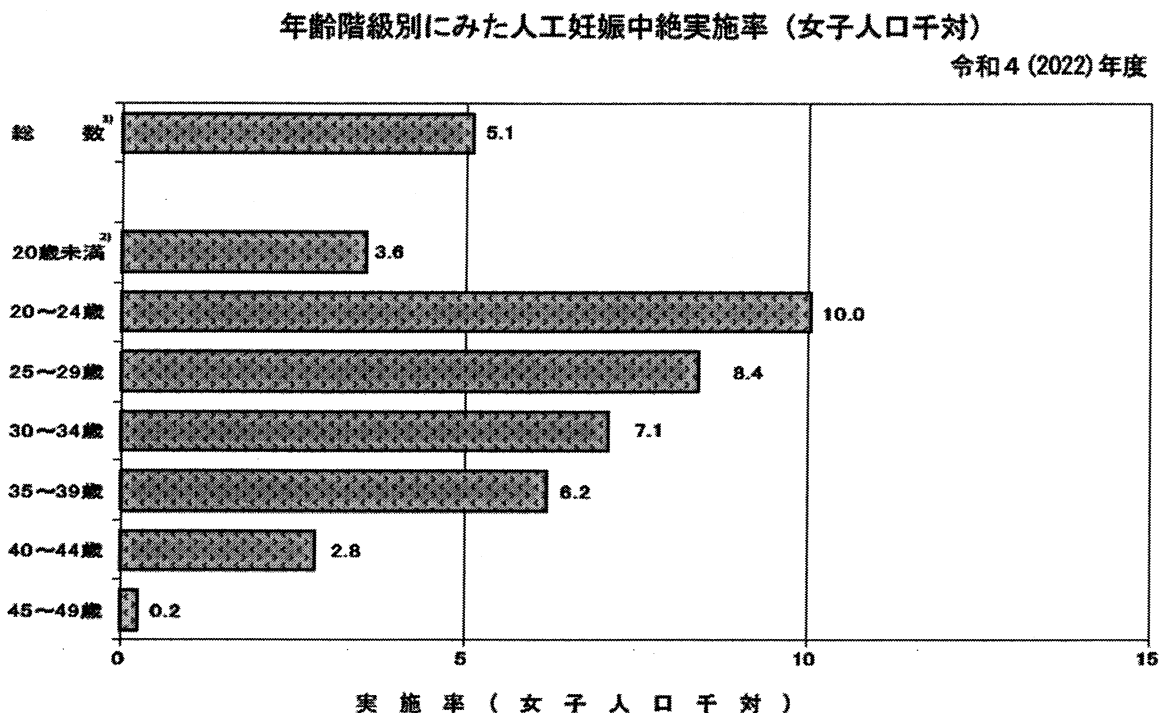
注意事項

- 1 試験開始後に「問題」、「解答用紙」の印刷不鮮明、汚れ等に気づいた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせてください。
- 2 解答はかならず「解答用紙」（白紙）に記入してください。「下書き用紙」（色紙）も配布しますが、間違って「下書き用紙」（色紙）に解答を記入しないようにしてください。
- 3 不正行為について
 - ① 不正行為については厳正に対処します。
 - ② 不正行為に見えるような行為が見受けられた場合は、監督者が注意します。
 - ③ 不正行為を行った場合は、その時点で受験をとりやめさせ退室させます。
- 4 試験終了後、「問題」と「下書き用紙」は持ち帰ってください。

問題

以下に示す図は、令和4年（2022）年度の我が国における年齢階級別の人工妊娠中絶実施率である。この図から読み取れる内容を記した上で、2023年4月に新しく承認された経口妊娠中絶薬（※）が我が国の人工妊娠中絶に対してどのような影響を及ぼすと考えられるかを、800字以内で述べなさい。

※経口妊娠中絶薬とは、イギリスの製薬会社ラインファーマが開発した「メフィーゴ®パック」という薬である。2種類の薬を所定の時間をあけて服用することで妊娠の継続を止める薬剤であり、対象となるのは妊娠9週0日までの妊婦である。処方できるのは、「母体保護法指定医師」として都道府県医師会に指定を受けた医師で、かつ入院可能な医療機関でのみ使用が認められている。



注：1）「総数」は、分母に15～49歳の女子人口を用い、分子に50歳以上の数値を除いた人工妊娠中絶件数を用いて計算した。

2）「20歳未満」は、分母に15～19歳の女子人口を用い、分子に15歳未満を含めた人工妊娠中絶件数を用いて計算した。

出典：厚生労働省 令和4年度 衛生行政報告例の概況 結果の概要5 母体保護関係 p.9

https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/eisei_houkoku/22/dl/kekka5.pdf

（2024年11月14日閲覧）

<この問題で見る視点>

○AP1 知識・技能

助産の基礎を学ぶために必要な看護学の知識と技術を身につけている。

○AP2 思考力・判断力・表現力

看護職としての論理的思考、問題解決力、表現力を身につけている。

<出題の意図>

人工妊娠中絶に関する最近の統計資料を利用し、グラフを読み取り考察する力があるかどうかを問う。さらに我が国でも最近承認された経口中絶薬がわが国の人工妊娠中絶に対する影響について、医療に携わる者として、医療的な側面だけでなく倫理的側面からも考察できるかを問う。